

職場問題を解決しよう！シリーズ⑧

実態に合わない基本動作の強要、 長期乗務停止は許さないぞ！

事実をすり替えるな！直ちに乗務に戻せ！

7月17日以降、亀山運輸区の組合員がワンマン列車に乗務中「左側のドアスイッチを右手で扱った」ことを理由に2週間以上も長期「日勤教育」が課せられています。

しかし、その「日勤教育」は再発防止や原因究明のために行われているのではなく、会社が決めた「基本動作に忠実に従わない」ことを責め立てる内容となっています。加えて、いつの間にか「基本動作をしない不良社員」のレッテルを貼り、問題点をすり替えようとしています。

私たちは、以前にも『東海労ニュース』で見解を明らかにした通り、基本動作とは永年の経験により先達がつくり上げた、最も安全で有効的な手段であり、実際に業務についている社員が自然にこなせる動作であると考えています。決して押しつけであってはならないと考えています。会社は、一方的に「ドア扱い」に対する基本動作を変更しました。多くの社員がその変更疑問を持っています。会社はそのことをまったく無視しています。

7月31日、私たちは中部運輸局に出向き、このような会社の「日勤教育」「基本動作」に対する問題点を訴えてきました。あわせて、ワンマン列車の問題点についても訴えてきました。当該運転士はもとより、私たちは「基本動作」一般について否定するものではありません。「左手でのドア扱い」は不合理であり、危険行為であると訴えているのです。

問題は、基本動作を変更したことについて、なんら説明、教育を行わず、現場の声を聞かない会社にあります。私たちは強く訴えます。このような労務管理は安全を阻害すると！私たちJR東海労は、職場の声を会社にぶつけていきます！

日勤教育を中部運輸局に訴える！